公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス 大和園彩多		
○保護者評価実施期間	R7年2月17日		～ R7年3月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	放40 児28	(回答者数) 放24 児20
○従業者評価実施期間	R7年2月17日		～ R7年3月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児、放)・静かに過ごす部屋と身体を動かす部屋に分け、活動の切り替えを行っている。	放)・ホワイトボードでの1日の予定掲示や、玩具や自立課題などの置き場所に見て分かるよう写真を貼って構造化を行っている。 児)必要のないものや掲示物などは置かず、集中しやすい環境を整えている。	放)・自立課題の中にも手順を写真などを使用し構造化していく。
2	放)・活動プログラムの充実	・毎月の遊びの内容や、お楽しみおやつなど各担当が考え毎月ミーティングで内容の確認を行っている。長期休みは、工作・クッキング・イベントのプログラムを盛り込み(夏はプールも)、子どもが飽きずに楽しめるよう工夫している。	・近場の県外などへの外出を増やし、外出プログラムの充実を図る。 ・バスや電車などの公共交通機関を利用した外出を行い、公共マナーを学ぶ機会を設ける。
3	放)・自分で考え、選択する環境。	・自分でスケジュールを組み、プログラムの参加や自立課題を行っている。 ・出来る限り自由時間は静かに過ごす部屋、身体を動かす部屋、裏庭と自分で遊びたい場所で何をするか決めて遊べるよう設定している。	・設定プログラムの中でも1つの目標に向かって自分で考え、意見を伝える場面を増やし、支援者から提供された内容だけでなく子どもたちも参加して作り上げていく場面を増やしていく。
4	児、放)・保育士や児童指導員、社会福祉士、介護福祉士といった職員が常勤で療育にあたっている。	・運動療育に関して、作業療法士が在籍していないので、研修や勉強会を行い職員が知識と経験が積めるよう行っている。	・作業療法士の募集を行い、より専門的な支援につなげていきたい。
5	児)・1人1人の発達に合わせた支援を行っている。	・5人の集団療育ではあるが、集団での活動が難しいお子様は1対1での支援に切り替えるなど臨機応変に子どもに合った支援を行っている。	・1対1での支援が必要な子に合わせて午前の枠は個別療育とし、午後の枠は今まで通り集団療育として対応していく。個別療育でも全体の様子を見て集団へとつながるよう支援していく。
6	児)・運動療育と感覚あそびに力を入れて支援している。	・運動療育は感覚統合器具を使った運動を取り入れたり、感覚あそびでは触覚・嗅覚・視覚・味覚を刺激する遊びを行い、感覚の時間は思いっきり自由にぐちゃぐちゃになって遊ぶことをテーマに、その中で子どもが発見や気づきを行えるよう支援している。	・新しい感覚統合器具の導入。 ・引き続き様々な素材をつかった遊びを提供していく。
7	児、放)送迎を行っている。	・保育園、こども園、幼稚園、学校、ご自宅への送迎を行うことで、送迎のできないご家庭も療育に通うことが出来ている。	・引き続き送迎を行っていく。

事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
--	-------------------	----------------------

1	<p>児、放)・地域との交流、地域住民との関わりの少なさ</p>	<p>・図書館や公園など利用したり、近くの就労B型の事業所さんへ買い物に行ったりしているが、地域住民の方との関わりは少ない。平日は下校時間の関係でその時間を作ることも難しい。</p>	<p>・引き続き、他事業所さんへの訪問や図書館や公園の利用を行っていく。また、同法人のデイサービスの利用者の方との関わりも増やしていきたい。いずれは地域の方々も参加できる催し物など行いたい。</p>
3	<p>児)・保育所やこども園、幼稚園等との交流がない。</p>	<p>・保育園やこども園、幼稚園に通いながら療育にいられている方がほとんどであり、それに対するニーズがあるか不明。しかし、未就園児もいられているので交流を持つことの必要性もある。</p>	<p>・ニーズとしてあるのかどうかを把握するためにアンケートを取ったり、面談の中で保護者様のニーズの把握を行ってきたい。</p>
4	<p>児)・緊急時や避難訓練など、放課後デイでは行っているが、児童発達支援では行っていない。 児、放)・安全計画や各マニュアルなどが周知されていない。</p>	<p>・まずは支援者が緊急時の行動の把握が必要なため、児童発達支援の支援時間以外で行っている。また、支援時間も短く訓練に充てていなかった。</p>	<p>児)・避難訓練も支援の一環として組み込んでいきたい。 児、放)・新規契約の際や、おたよりや書面などを通して周知していきたい。</p>
5	<p>児、放)・保護者会の開催や保護者同士の交流。</p>	<p>・年に2回保護者会を開催しているが、参加人数がそれほど多くなく、交流の場が少ない。</p>	<p>・開催日を増やしたり、託児を設けるなどし、参加しやすい環境を作りたい。</p>